

## 令和5年度 第1回 宇都宮市総合教育会議 議事録

- 1 日時 令和5年9月20日（水） 午後1時30分～午後2時30分  
2 場所 宇都宮市役所13階 教育委員室  
3 出席者  
（構成員） 佐藤市長  
小堀教育長，大森委員，檜山委員，小野委員，亀山委員  
（事務局） 教育次長，学校教育担当次長，教育企画課長，  
文化課長，スポーツ振興課長  
4 傍聴者 0名  
5 議題 スポーツ・文化行政の組織体制について

### 6 議事の内容

#### (1) 開会

梓澤教育次長

ただいまから，令和5年度第1回宇都宮市総合教育会議を開会いたします。本日の会議の進行を務めさせていただきます，教育次長の梓澤でございます。よろしくお願いいたします。

#### (2) あいさつ

梓澤教育次長

はじめに，佐藤市長からごあいさつをお願いいたします。

**佐藤市長あいさつ**

梓澤教育次長

ありがとうございました。  
続きまして，小堀教育長からごあいさつをお願いいたします。

**小堀教育長あいさつ**

梓澤教育次長

ありがとうございました。  
ここからの議事の進行につきましては，市長にお願いしたいと思っております。佐藤市長，よろしくお願いいたします。

#### (3) 議事

佐藤市長

それでは，議事に入ります。  
議事「スポーツ・文化行政の組織体制について」  
になりますが，  
まずは，事務局から説明をお願いします。

**人事課説明**

それでは，ここで，教育委員の皆様から  
スポーツ・文化行政の市長事務部局への移管に係る考えなど  
それぞれご意見を伺いたいと思っております。

大森委員

私からは、家庭環境や経済格差に左右されずに、スポーツ・文化を享受できる機会の提供をより一層お願いしたいということを申し上げたいと思います。スポーツも文化も、人々の生きがいや人生の潤いの源であり、あらゆる世代に、できる限り公平に、それらを提供していくことが重要であると思われまます。移管によって、より一層、宇都宮市民に対して、機会の提供、そして市民がそれらを享受できるよう促進されると良いと思います。

また、Society5.0 社会では、子どもたちの非認知能力を高めていくことが重要だと言われております。この非認知能力というのは、学校のテストのようなスコアで出てくる能力ではなく、交渉力であったり、コミュニケーション能力であったり、そういった能力を指していますが、スポーツや文化を通してそれらが向上していくことが可能であると思われまます。子どもたちの非認知能力育成にも寄与するものと思いますので、移管によって、より広く、より充実した内容で子どもたちへの機会の提供が進められていくことを大いに期待しているところです。

家庭環境の違い、経済格差によって、スポーツも文化もなかなか享受できない層への、より効果的な情報提供の手法が導入されると良いと思いますので、教育委員会にあったときもさまざまな手法で情報提供を行ってききましたが、この点につきましても移管によって促進されることを期待しています。

檜山委員

スポーツ・文化による更なる都市魅力向上について意見申し上げます。

LRTが開業し、宇都宮市は新たな時代に突入したと思っております。本市の重要課題として、都市の魅力やブランド力の向上が挙げられ、元々持っている物のブラッシュアップや限られた人が取り組んでいた芸術や文化など地域の観光資源を掘り起こしていくのは大切なことだと思っております。

スポーツ関連の国際レースや大会での街中の賑わい・経済効果はかなりのものがあり、まだまだ上積みを見込めると思いますので、関係各所と調整し集客効果のある施策を進めていただければと思います。

本市に拠点を置いているプロスポーツチームは、地域との交流に重点をおいて活動されています。行政としてサポートできるところをさらに充実していただければと思っております。例えば、街中フラッグなどの広報周知を行っているが、商店街としては有料での貸出をしていることから、チームへの直接の支援が難しいものがあるならば、商店街への助成項目にそういったことを追加していただければ、間接的にチームの支援につながるのではないのでしょうか。

中核市としては、移管に関していえば、遅い方であるため、参考となる先行事例を収集・分析を行っていきながら、連携の構築をお願いします。

小野委員

学校教育とスポーツ・文化の連携の維持・継続に向けての意見となります。

移管によって、経済的な格差により、児童生徒がスポーツ・文化芸術活

動に関わる機会が減少することは避けなくてはならないという問題意識があり、また、今までスポーツ少年団と中学校以上の部活動で関係する機関が別々になってしまっていたというのがあったようで、今回の移管でさらに距離が離れてしまわないよう、問題意識としてもっております。まずは、子どもたちのスポーツに関わる機会がより活性化する方向に進むよう、問題点等があれば見直し、これまで無かったような関係機関との協働を模索していただきたいと思っております。

また、学校部活動の地域移行が議論されているところでもあり、この移管のタイミングを、地域スポーツクラブや文化活動団体との協力関係を見直す契機としても活かしていただきたいと考えております。

亀山委員

学校教育・施設と地域活動との効果的かつ継続的な連携・接続について意見を申し上げます。

学芸員の出前講座や宮っ子伝統文化体験教室などは児童生徒に良い影響を与えている活動だと思っております。移管後も、文化を身近に感じる環境づくりや体験する機会を、学校と連携し、継続して行ってほしいと考えております。

また、校庭や照明などの学校施設を使用し、活動している地域や団体もあります。移管により支障をきたすことのないよう、引き続き、活動していけるような環境を継続していく必要があると思っておりますので、今後ともよろしく申し上げます。

教育長

文化・スポーツの中でも学校と関わりがある事業もあるため、文化・スポーツが移管したことにより、関わりが薄れることはなくしたいと思っております。学校現場から不安だという声等はまだ聞こえてきていませんが、そういった声がある可能性もあります。教育委員会といたしましても、教育委員会内の各課に担当をおいて、これまでどおりもしくはこれまで以上の連携を図れるよう取り組んでまいります。文化スポーツ行政が市長部局に移管したから、マイナスになることがないようにしていきたいと考えております。

佐藤市長

より一層のスポーツ・文化振興、都市魅力の向上に向けての意見をいただきましたが、再編後は、本市の魅力の発掘・創出・磨き上げにより一層取り組みつつ、本市の魅力を発信しながら、多彩な地域資源である国際・市民スポーツイベント、文化芸術イベント、観光やMICE等の一体的な推進を通して、市外から訪れる人から本市の文化財や芸術、スポーツを見て、触れていただく機会を増やすことで、それらを地域で守っていこう、地域で盛り上げていこうという機運や結束力を高めていきたいと考えています。

加えて、社会的にも関心の高い「ウェルビーイング」の実現に向けまして、健全な青少年の育成、高齢者の生きがいづくり、生涯にわたる健康の

維持増進といった関係する分野との連携をこれまで以上に図ることで、あらゆる世代が、それぞれの体力や年齢、技術、興味・関心、目的に応じて、いつでも、いつまでもスポーツ・文化を楽しめる環境を整えてまいります。

こういった「文化財の保護・活用」や「スポーツ・文化芸術の振興」を図ることにより、「シビックプライドの醸成」、「市内外からの注目やあこがれの獲得」、さらには、「交流人口・関係人口の増加」、「移住・定住の促進」にも繋げるなど、宇都宮ブランドの更なる向上していく好循環の社会をつくっていく契機にしていかなくてはならないと考えております。

これまで、教育委員会において、スポーツや文化を通じた心身共に健やかな「人づくり」を進めていただけてきた中、今回の再編で、スポーツ・文化行政の軸足は市長部局へ移されることとなりますが、各種取組の主目的等を踏まえ、引き続き、教育委員会で所掌していただくことが望ましい事業もあるかと思えますし、市長部局に移管されたものでも、学校教育の視点からの連携が求められる事業もあるものと思っております。

移管当初は、多少の影響が出ることも想定されますが、都度、丁寧に対応しながら、これまで築いてきた教育委員会との連携を基礎としつつ、市総体として、スポーツ・文化を通じた「人づくり」を深化・発展させていきたいと考えています。

教育委員会が取り組んできた企業との連携をさらに進めていきたいと思えますし、さまざまな分野で市長部局の各課が踏み込んで、より効果的に施策につなげていくことが必要だと思っております。それぞれの取組を今まで以上に力を入れていく契機にしていくことが必要であると考えます。

それでは、皆さんの意見を踏まえ、質問や意見があればお願いします。

大森委員からご意見があった経済的な理由でなかなかスポーツなどに関われない人が、バブルが崩壊してから30年、40年経過して顕著にでてきたように感じています。特に高校の部活動は、遠征の試合などもあり、かなりのお金がかかってしまい、遠征のバス代などを毎月の部費として徴収するとなると、かなり高額になってしまいます。県教育委員会もそういった現状を察知しているかとは思いますが、どうすべきか自分でも考えているところです。部活動を途中でやめてしまう人などもいると聞いています。

大森委員

小中学生の中でも運動したいのに、部活動でさえもお金がかかってできない子どもたちも出てきています。また、美術館など、文化的なものに触れ合う機会がない、プライベートではなかなか行ったことがないという話も聞くので、なんとかきっかけ作りがもう少し進められればと思っております。

佐藤市長

部活動の地域移行については、企業と関わりをもち、行政や地域も巻き

込んで総合的に対応していく中の一つの課題だと思っています。様々なスポーツ、文化的な活動をいつでも共有、体験できるようにしていきたいと思っております。また本市では、1人1スポーツを進めています。天候などの影響で1つのスポーツの予定がなくなってしまうとなかなか運動をする機会がなくなってしまうことから、例えば室外と室内の2スポーツなど、1スポーツといわず、2スポーツ以上あるといいのではとも思っています。また、クラブチームに入らないと野球が続けられない、学校の部活動は人数が足りなくて編成できないなどの課題も出ていることから、地域移行をきっかけに子どもたちが、子どもの頃からやりたいスポーツができるようにしてあげたいと思っています

小野委員

例えば、アメリカでは、アメフトと野球を一緒にやっているというのによく聞きます。本人にとっても良いと思いますし、タイミングが難しいのであれば、部活動の地域移行のタイミングは良いのではないかと考えます。ここ半年くらい地域移行に関して話がありますが、企業の動きなどはありますか。

スポーツ振興課長

都市部では民間事業者との連携をしているところもあり、本市としても東京や関西など大手事業者や人材派遣などからご案内を頂戴しております。市内の業者にもヒアリングを実施してまいります。

小野委員

今後、都市部など部活動の地域移行がより進んでいるところで、複数のスポーツができる場所などあればぜひ知りたいです。

佐藤市長

企業では社会人のチームがあるところもあり、そのチームを引退した人に子どもたちの部活動をみてもらうのも良いかと思えます。ゼビオなどで契約している人が引退した場合、先のいくところがないのが課題となっています。それを企業側も気にしていて、行き先を考えるのは企業の責任だと意識しているとのことで、こういった企業が地域などとうまく連携とれば、子どもたちにとって、いい環境づくりになると思います。また、道具などを無償で貸していただくなどの連携なども出来れば良いと思います。

教育長

そういった点でいえば、市長部局に移管したほうが強くなると思います。

檜山委員

街なかのイベントについて、行政のイベントは秋頃に集中していて、新年度になってから夏までの春先は、民間主体のイベントが多いように感じています。異動などもあり大変かとは思いますが、行政主体のイベントを分散させて春先にも実施ができないのでしょうか。

佐藤市長

年度末は難しいかもしれませんが、年度当初は、3X3も実施していたこともあるので、可能ではあると思います。商店街の方にとっても年間を

通してまんべんなく来てもらった方がいいと思います。

檜山委員

LR Tができてから駅には常に人が多くいて、東口が盛り上がっている  
のでぜひこの機会を利用してほしいと思います。

佐藤市長

平石停留所のあたりには、飲食店や3 X 3、スケートボードなどの屋内  
スポーツ施設がある公園を作る予定です。この件に関しましては、様々な  
ご意見をいただいております、そろそろ企業が決まってくる頃と聞いておりま  
す。スケートボードなどの競技をやっている子どもたちが、競技をやる場  
所がないため、環境をつくってあげる必要があると考えています。また、  
北西部の体育館には、BMXが活動できる場所を作っています。

小野委員

ぜひ大会の誘致などもできるといいと思います。

佐藤市長

文化面で何か心配ごとなどはありますか。

小野委員

大谷地域を活用するにあたり、今までどおりの連携がより密になるの  
でしょうか。

文化課長

これまでも文化課は文化財を発掘し、磨きあげを担い価値づけをしてい  
く、経済部では、それを活用するといった役割分担で進めていたところ  
ですが、市長部局に移行することにより、業務の連携はこれまで以上に意思  
疎通が図られていくのではないかと考えており、特に大谷地区は私どもも  
期待しているところであります。

教育長

毎年、「日本遺産サミット」では、文化課と経済部の大谷振興室の職員が  
一緒に参加して大谷石の関係のブースを実施しており、今後、市長部局に  
いけば、一つの部局、課としてやっていけるようになります。

小野委員

移管によって、改革のスピードが遅れたり、やりたいことが遅れたりす  
ることなどはないかと思いますが、例えば学校の経済格差や家庭環境によ  
る部活動の格差などは意識していただければと思います。

教育長

これまで通り、ジュニア芸術祭などは連携を図りながら実施していきたい  
と思いますし、美術館の見学やふれあい文化教室など様々な芸術活動を  
子どもたちに体験してもらおう活動についても新しい課をメインに行ってい  
きますが、教育委員会内にも担当を置き、連携を図っていきたいと思いま  
す。

大森委員

足尾銅山の方と話をしたときに、今までは足尾銅山を「守る」・「保存す  
る」ことに主眼をおいていたが、それだけだと廃れていくため、これから

は戦略的に観光資源にしていくという話がありました。教育委員会にあると保存・継承が得意かと思いますが、市長部局に移管するとそれを資源としてより価値を広げられるかと思いますが、そこを期待しています。

佐藤市長

地域や企業に関心をもってもらい、イベントをやるときには委員になってもらったりとか、スポンサーになってもらったりとか、だんだんと輪の中に入ってきてもらえるようになっていければと思います。百人一首の市民大会などの教育委員会のイベントは、スポンサーなどはなく、教育委員会の予算のみで行っていますか。

教育長

基本的には教育委員会の予算で行っていますが、百人一首の大会などでは、郵便局が局長賞を出すなどは協力いただいています。

佐藤市長

企業にとっても宇都宮市との関わりが実績・PRになるかと思いますが、積極的に企業を取り込んでいきたいと思っています。移管によって、大々的にできるようになるかもしれません。

檜山委員

文化活動の高齢化が進んでいるように感じています。教育委員会では、高齢の方が小中学生を対象に文化に関する説明などを行っていますが、中間層が抜けているので、市長部局に移管したときには、そういった中間層の取り込みを考えていけばさらに市民が文化面に触れる機会が増えると思います。講座などに参加しているのは、ほとんどシニア世代であり、講座の設定時間帯も働いている方にとって参加が難しい実情があると思うので、そういったところももう少し工夫していただきたいです。

亀山委員

先ほど市長から部費が払えないから辞めてしまう子どもたちがいるというお話がありましたが、現場でスポーツをやりたいけど家計の関係でできない子どもたちをみてきました。部活動の地域移行の際にこういった子どもたちに危惧し、平等に同じ環境でスポーツをしてほしいと思います。

佐藤市長

移管されて、まずはがむしゃらに走るしかないと思っております。やりながら失敗を是正しながら進めていくことによっていい形に落ち着いていくと思います。良いところは積極的に残して、悪いところは改善していき、特に今までできなかったこと、移管先で果敢にせめていきたいと思っています。

#### (4) その他

佐藤市長

次に「その他」になりますが、教育委員会の皆様から何かございますか。

(特になし)

佐藤市長

ありがとうございました。  
それでは、進行を事務局に戻します。

**(5) 閉会**

梓澤教育次長

以上で、令和5年度第1回宇都宮市総合教育会議を閉会いたします。  
ありがとうございました。